

平成28年度第2回廿日市市総合教育会議 会議録

- 1 日時 平成29年3月10日（金）
開会13時00分 閉会14時20分
- 2 会場 廿日市市役所201会議室
- 3 出席者（構成員）

市長	眞野 勝弘
教育長	奥 典道
教育委員	山川 肖美（教育長職務代理者）
教育委員	山下 芳樹
教育委員	中尾 好美
教育委員	渋谷 憲和
教育委員	山田 恭子

（事務局）

副市長	堀野 和則
分権政策部長	西村 元伸
教育部長	西 寿実
福祉保健部長	山本 美恵子
分権政策部次長	金谷 善晴
教育部次長兼教育指導課長	生田 徳廉
教育部次長兼教育総務課長	泉 勝
自治振興部次長	谷口 浩示
生涯学習課長	金沢 民恵
生活福祉課長	和田 浩
障害福祉課長	寺岡 慶治郎
子育て支援課長	村上 雅信
経営政策課主任企画員	木下 英治
教育総務課係長	畑板 純子
経営政策課主任	飯尾 公一
- 4 議事
 - （1） 第1回会議での提案事項について
 - （2） 平成29年度の子育て・教育関連の主な事業について

【議事】

事務局（分権政策部長）

定刻になったので、平成２８年度第２回廿日市市総合教育会議を開会する。

本会議は公開のもと開催し、議事録の要点を公表する。

初めに、廿日市市長の眞野より挨拶を申し上げる。

眞野市長　本日の会議では、第１回会議における提案事項及び新年度に実施する子ども・子育て教育関連の主な事業について説明を行うほか、新年度における総合教育会議の議題に関し、教育委員の皆様方から意見を伺いたいと考えている。

この総合教育会議を通じて、より一層、教育委員の皆様方と連携を深め、本市の更なる発展・充実に向けて努めてまいりたい。

事務局（分権政策部長）

次第３、議事については市長により進行する。

眞野市長　議事（１）、第１回会議での提案事項等について、説明を求める。

事務局（分権政策部長）

１点目、現地視察についての提案であるが、教育委員会会議に合わせて計画をしたい。候補としては、平成２９年度に視察予定の市内小学校から１校のほか、あいプラザ内の子育て支援センターを考えている。詳細については、改めて、日程調整等連絡をさせていただく。

事務局（生涯学習課長）

２点目、友和小学校区における放課後対策の取組状況について説明する。友和小学校では、平成２２年に学校支援地域本部が立ち上がり、地域の方々による学校支援の取組が続けられている。放課後子供教室「ほっこりクラブ」として取組を進められる予定だが、学校と地域、市の関係機関等が連携し、地域の方々の理解、子どもを地域で育てようという強い思いのもと、新年度４月からは、放課後子供教室を週１回、木曜日の午後に実施できるよう体制を整えている。友和小学校区内において一体とした取組となるよう、留守家庭児童会と放課後子供教室が連携し、留守家庭児童会に入会している児童も参加できるよう、柔軟な体制の中で、子どもたちが安心して活動できる場を広げていきたい。

眞野市長　何かご意見、ご質問等があればお願いします。

山田委員　「ほっこりクラブ」は、どこの場所で行う予定なのか。

事務局（生涯学習課長）

学校の余裕教室で行う予定である。

眞野市長 友和小学校の放課後対策の取組については、今後、全市的な取組となるよう進めていきたい。続いて、平成29年度の子育て・教育関連の主な事業について、説明を求める。

事務局（分権政策部次長）

資料1により説明する。これは、「平成29年度当初予算案の概要」から、子育て・教育関連の事業を抜粋し、平成27年度に策定した教育大綱に掲げる基本方針ごとに取りまとめたものである。

「基本方針① まち全体で子どもを育てます」では、誰もが安心して生活できる地域づくりの取組として、自立相談支援事業、住居確保給付金支給事業及び一時生活支援事業の実施や、子どもの学習支援事業の実施箇所、対象者の拡充など、生活困窮者に対する自立支援施策の拡充を図っていく。子どもを安心して産み育てられる環境の整備では、子育て世代へ提供する情報の拡充と利便性の向上を図るため、ホームページをスマートフォン対応にするとともに、子育てアプリケーションの導入を行う。また、出産前後の母親の心身の不調や育児不安などの負担軽減を図るため、新たに産後ケア事業を実施するほか、妊娠・出産期から子育て期にわたる様々なニーズに対して、ワンストップによる総合的な相談・支援を行う、子育て応援室「ネウボラはつかいち」を設置するとともに、保育の充実と女性が活動しやすい環境づくりの取組として、不足する保育士の確保に向け、市内の民間保育園と協力し、就職ガイダンス等を実施する。また、保育ニーズへの対応と待機児童の解消を図るため、民間保育園の整備を推進するとともに、池田保育園の建て替え工事を行うほか、地御前小学校の留守家庭児童会への入会希望者の増加に対応するため、小学校敷地内に木造による児童会施設を新たに整備し、受け入れの拡充に努めていく。また、留守家庭児童会については、今年度から対象児童を小学校3年生から6年生に拡充したこと、女性の社会進出により入会児童が増加している状況にある。今後とも学校と連携を図りながら、空き教室や図書館などの施設の活用を含めて受け入れの拡充に努めていく。

「基本方針② たくましく自立し、学び合い高め合う教育を推進します」では、社会のニーズに応じた教育の推進の取組として、グローバル化の進展の中で、子どもたちの外国語によるコミュニケーション能力を育成するため、全ての市立幼稚園、小学校、中学校に、引き続き外国語指導助手、A

L Tを配置するとともに、台湾・基隆市との交流事業を実施する。

「基本方針③ いのちを大切に作る心を育む教育を推進します」では、子どもたちの状況に応じた教育や心の教育の推進の取組として、身の回りの問題を自ら解決しようとする態度を育むため、市内の中学校生徒会代表が一堂に会する生徒会サミットを開催する。また、小学校に生徒指導アシスタント、中学校に心の教室相談員を配置するとともに、教育委員会事務局にスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを配置し、相談・教育体制の充実を図る。さらに、特別支援教育支援員を配置して、支援が必要な児童・生徒の学校生活のサポートを実施する。

「基本方針④ ふるさとに誇りと愛着をもつ心を育みます」では、魅力ある郷土の歴史や文化の学習と次世代への継承の取組として、子どもたちのまちへの愛着と誇りを育むため、全小・中学校において、郷土の歴史・文化などについて学ぶふるさと学習に新たに取組む。

「基本方針⑤ 生涯にわたる自発的な学びを支援します」では、まちづくり拠点機能の充実の取組として、市民センターのバリアフリー化や耐震化等を行い、市民センターの環境の改善を進めていくとともに、持続可能な地域自治への支援の取組として、これまでの補助金制度を見直すことにより、地域課題の解決に、より柔軟に対応できる仕組みを構築し、地域自治の推進を図っていく。また、中山間地域の振興に向けた各種事業に取り組んでいく。スポーツや趣味などの身近な挑戦の支援の取組として、生涯にわたってスポーツに親しみ、健康で明るく豊かな生活が送れる生涯スポーツの実現を目指し、スポーツ推進計画を策定する。世界にはばたく人材の育成の取組として、2020東京五輪のホストタウンや事前キャンプ地の誘致に取り組み、市民とアスリートの交流を通して機運醸成を図るとともに、オリンピックレガシーへとつなげていく。説明は、以上である。

眞野市長 何か質問等があればお願いします。

山下委員 現在の地御前児童会は小学校敷地内にあるのか。また、これは意見であるが、今後も学校との連携を図りながら、学校の空き教室等の利用についても進めて欲しい。

事務局（子育て支援課長）

地御前児童会は小学校敷地内にある。児童数の増加に伴い、児童会施設が狭隘となったため、学校の図書室を一時的に利用してきたが、施設の老

朽化もあり、現在地において、新たに規模を拡大し整備するものである。
建物規模は1階平屋建てから2階建てとなる予定である。

山下委員 利用人数はどうなるのか。

事務局（子育て支援課長）

今までの40人定員から、90人定員の予定である。

山下委員 規模が大きくなったことは大変良い。他の地区でも児童会の整備・検討を行う際には、学校の空き教室や特別教室等の利用を考慮して欲しい。

事務局（子育て支援課長）

基本的には、学校の空き教室を中心に考えていくが、沿岸地域では、逆に教室が不足している状況が見受けられる。空き教室がある場合には、積極的に取組んでいきたい。

澁谷委員 地御前児童会の運営主体はどうか。

事務局（子育て支援課長）

運営主体は、市である。今後も市の子育て支援課で対応を予定している。

山川委員 「子どもを安心して産み育てられる環境の整備」に関連して、親同士のネットワーク作りについて取組があるかを伺う。次に意見であるが、ある調査では、父親と母親で欲しいネットワークが少し違うようである。母親ニーズの一番は、自分の時間の確保である一方、父親は、子育てする時間がもう少し欲しいという結果である。もし、ネットワーク作りに向けた取組をされているのであれば、このニーズの差を考慮していただきたい。

事務局（福祉保健部長）

子育てしやすい環境ということで、乳幼児を持たれる親同士のネットワークというのが非常に大切だと伺っている。父親、母親教室など、自然発生的にできるものもあると聞いているが、市では、あいプラザ内の子育て支援センターにおいてネットワーク作りの場の提供を行っている。グループ等による情報交換の場が苦手な方や、親自身に精神的な不安がある場合には、専門家による支援等も行っている。また、父親に対しては、企業を通したワークライフバランスの推進として、雇用主に対する意識の変革、母親に対しては、精神的なゆとり確保を目的に、新規事業として産後ケア事業という枠組みの中で、家事援助サービスなども始めていく予定である。

山川委員 久留米市の取組を例に、母親に関して言えば、挑戦する女性が集まり独自のライフワークスタイルを創る「メリコア」というグループがある。父親

にも自分たちで子育て支援の方法を磨く「パパラフ」というグループがあり、一番興味を持った点は、その2つのグループが合同で年に数回イベントを行っているという点である。このように、課題に対して積極的なアプローチの仕方というのも少し考えられると良いのではないかと思います。

もう一点、保育士確保に向けた取組について、保育士が不足する理由を伺いたい。

事務局（子育て支援課長）

不足理由に対する明確な分析は行っていないが、多く耳にするのは、現場実習を経て、卒業生が保育現場にそもそも就職を希望しないことや、就職しても、思った以上に厳しいということで、早期退職するということが主な要因ではないかと考えている。特に、結婚を機に退職をする方も多いと聞いており、今後は職場復帰に向けた掘り起こしも進めていきたい。

山川委員 広島県内には大学等もあり、保育士の供給機関は充実していると思う。不足理由については、一度、分析をお願いしたい。そういった理由が明確になれば、例えば、保育現場の働く環境を少し改善するなど、効果的な対策も行えるのではないかと思います。

中尾委員 新規事業の「産後ケア事業」についてであるが、誰がどのようにこのサポートシステムを利用することができるのか。

事務局（福祉保健部長）

産後1ヶ月健診助成事業については、産婦に対する健診であり、出産した方全員を対象に、一定額を市から助成するというものである。また、子どもの出産から子育てに関する相談を1ヶ所に集める「ネウボラ」という行政機関の設置も行う。育児母乳外来等事業や家事援助サービス助成事業を通じて、体のケア、心のケア、授乳指導、育児相談・指導等が受けられるよう関係機関とともに取組みを進めていきたい。

中尾委員 出産前後と書いてあるが、ネウボラのシステムのように出産前のサポートも行うのか。

事務局（福祉保健部長）

出産前のサポートについては、主にネウボラでの相談で対応を考えているが、家事援助サービスについては、産前からでも必要に応じて利用できるような制度にしていきたい。

中尾委員 こんにちは赤ちゃん事業について、いつ家庭を訪問するのか。

事務局（福祉保健部長）

2ヶ月から4ヶ月ぐらいの期間を目安に、市内の各地域で委嘱している母子推進員が全家庭を訪問する予定である。

中尾委員 フィンランドにおけるネウボラのシステムは、1人の担当者が、継続してサポートし、実際に問題が起こる前の予防策が取られている。導入は簡単ではないと思うが、将来的にはそういう視点も必要ではないかと思う。

山田委員 佐伯高校の魅力化支援について、最近、佐伯高校のPTAが作成した冊子を拝見し、大変、心が温かくなった。佐伯高校の全校生徒の写真が平成29年度当初予算の概要の表紙にも掲載されたが、このような大変素晴らしい地域の魅力を別な形でも発信できたら良いと思う。

それから、学校跡地活用の具体的な内容について説明をお願いします。

事務局（教育部次長兼教育総務課長）

佐伯高校については、地域とともに魅力ある学校づくりを進めている。情報発信の強化とともに、地元中学生の選択の場がなくならないよう、また人材育成のためにも、地域外から選ばれるような取組を進めていきたい。

学校との連携についても、加速的に連携を行っているので、教育委員会議においても報告させていただきたい。

眞野市長 佐伯高校の件は、可能な限り努力していくので支援よろしくをお願いします。

事務局（自治振興部次長）

浅原小学校跡地については、地域の方々との継続的な協議を踏まえ、耐震性能が不足している校舎の解体と、グラウンドゴルフの公式なコースを2面程度想定した多目的グラウンドとともに、活性化施設の整備を行うよう計画している。来年度は、校舎の解体後、多目的グラウンドの整備を行う予定である。活性化施設と併せて、卒業生等が当時の学校に思いを馳せられるような施設機能も検討している。

活性化施設の規模は、木造1階建て200㎡程度を考慮しており、沿線の自転車を意識した「バイクの駅」や、地域で収穫した農産物の直売所などを計画している。来年度の後半には、施設内容の具体化を含め、地域とともにプランを検討したい。

眞野市長 玖島小学校跡地はどうか。

事務局（自治振興部次長）

玖島については、校舎の耐震性は確保されており、その校舎の活用策に

ついて、地元の方々と協議を行っている。地元からは、隣接する歴史民俗資料館の移転に関する意見も出されており、学校教室のレイアウトを考慮しながら、今年度中には図面案を完成させたい。

奥教育長 佐伯高校の話が出たが、地元中学校から高校へ行く割合は、約4分の1程度である。佐伯高校の魅力化とともに、中学校と高校との連携も図りながら、市長部局の応援を背に、教育委員会としても大いに力を注いでいきたいと考えているので、教育委員の皆様も協力をよろしくお願いします。

澁谷委員 佐伯高校は県の管轄であるが、高校の統廃合の対象になるから、魅力を作ろうという理解で良いのか。

奥教育長 一つの目的ではあるが、ただ単に高校を残すということではなく、それを起点に、中山間地域全体を活性化していく一つの方法、手段として踏襲していくことが大事なのではないかという観点である。

事務局（自治振興部次長）

佐伯高校は佐伯・吉和地域で唯一の県立高校である。今年度から、高校に派遣する地域支援員との連携も図りながら、地域や高校の魅力を最大限にPRすることで、結果として生徒数の増加につながっていけば、地域のためにもなると思っている。

澁谷委員 佐伯中学校の卒業式に出席したが、沿岸部への高校進学はどの程度か。

奥教育長 多い場合で28%程度である。

中尾委員 本市には、スポーツに親しむ施設として、サンチェリーがある。利用者から駐車場に関するクレーム、具体的には、場内に無理に駐車した車によって、自分の車が出庫出来ずに時間を無駄にしたという事例が多く聞かれている。この対策は検討されているのか。

事務局（教育部長）

サンチェリー周辺には、駐車場用地として、確保できそうな土地はないため、何らかの対策を考えてみたい。

山下委員 本日、出席した中学校の卒業式では、子どもたちから感動をもらった。何年か前から始めた安心して学べる集団づくり「生徒会サミット」の開催について、内容が拡充されていると思うが、これまでとの違いを伺いたい。

事務局（教育部次長兼教育指導課長）

生徒会サミットの取組については、今年で2年が経過した。3年目に向けては、その質を高めていくため、当市の指導教員による、先進的な取組

の情報共有や、実際に取組んだことを外部発信していきたい。

眞野市長 次第5、その他であるが、ここでは、新年度の第1回目の総合教育会議でのテーマについて、委員の皆様から意見を伺いたい。まずは教育長。

奥教育長 思いを述べる前に、1つ。先ほど友和放課後子供教室のことで、市長から話があったが、教育委員会としても、この事業が全市的に着実に進んでいくよう市長部局とも連携を図りながら、総合教育会議における議題でもあるので取組んでいきたい。その上で、来年度のことを3点ほど述べたい。

1点目は、「スポーツの振興」である。高齢者を含む大人の生涯スポーツや子どもの部活動、新しい視点では障がいを持った人たちのスポーツとして、何か市民と一緒に出来ることを考えられないかということである。特に、体力、運動能力が、廿日市市の子どもの全国平均より低い種目も半分程度ある。この辺も含めて考えてみたい。

2点目は、教職員の多忙化の解消。私もこれまで教育委員会議の中で、この問題について議論をされ、学校現場の先生が生き生きと働きながら指導力を発揮するということは、極めて大事なことでと考えている。

3点目は、子どもの健康面から、食育という観点は大事なのではないかなと思う。それは子どもだけの問題ではなく、大人の健康という問題とも直結するような問題であると思うので、これも市長部局と一緒に考えてられるのではないかなと思っている。

眞野市長 教育長から3点挙げられた。各委員から意見を願います。

山下委員 私は、学校教育に関して思いがあり、教職員の多忙化の解消が重要ではないかなと思う。もう1点は、子どもの心をいかに育てていくかである。

山田委員 私も教職員の多忙化対策というのが重要課題だと思っている。教職員がゆとりを持ち、子ども目線で寄り添えるような体制づくりが必要であり、学校だけではなく、地域と一緒に解決していく必要があると思う。

山川委員 私も教育長の意見に賛成である。私自身、廿日市市に全く縁がないが、自分がなぜ住み続けているのかを考えたときに、1つは、高齢者も子どもも、皆が、まちに来て楽しめる、そういう風土があるまちであり、それが、例えば、あいプラザ、サンチェリーという形で象徴され、そこに行けば誰かに会えるというような場所が幾つもあるのが魅力として映っている。そうした中で、例えばスポーツの振興というところも、大きな大会というよりは、まず日常の中でそれが親しめる状況づくりというのが必要だと思う。

具体的には、1時間で歩けるコースはどこか、1時間でサイクリングできるコースはどこかといった、少し廿日市全体をスポーツができる地域という捉え方をしたマップを考案することも一つである。また、これはお願いであるが、自転車に対する環境整備があると良いと思う。食育も全く同じで、様々な方をつなぎやすいものだと思うので、スポーツとか食育というのテーマはあっても良いと感じたところである。

中尾委員 サイクリングロードや、ウォーキングマップなどしっかり整備・PRすることで、宮島以外の地域への周遊にもつながると思う。教職員の業務の多忙化の解消につながるかとも思うが、都市部では、子どもに知らない人へ挨拶をしないように指導している事例や、子ども会、PTAにさえも入らないという保護者が増えてきており、今までになかったような問題も発生している。そういうことが起こる前にしっかり地域でつながっていくことが、きっと先生たちの多忙化の解消の一つになるのではないかと思う。

澁谷委員 ここ数年で英語教育の低年齢化が急激に進んでいると思うが、本当の意味の国際化というのは英語だけではない。本当の意味の国際化、発想の国際化という視点で、何か身につけられるようなことができれば良い。

山川委員 澁谷委員の国際化への対応について、日頃から感じていたが、子どもたちの英語を学んだ後の姿がイメージできない。澁谷委員は、仕事で当然のように英語を使われていると思うが、そうした地元の企業の中にも英語が入り込んできているということが体験できれば、もう少し身近なものになり得るのではないかと思う。

中尾委員 国際理解という観点で、様々な文化を学ぶとともに、日本の文化を発信するためにも英語の必要性を感じるのではないかと思う。

山下委員 必要だというのは大変感じる。これからの子どもたちには、世界に出て行ってほしい。教科書で学ぶ英語だけでなく、自分が自分を表現できるような英語力をしっかり身につけてもらいたい。

眞野市長 それでは、テーマについては、意見を踏まえ、事務局で決定するのでよろしく願います。それでは、平成28年度第2回総合教育会議を終了させていただく。

事務局（分権政策部長）

以上をもって閉会する。